

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1290100237		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム千葉寒川の家 1階		
所在地	千葉県千葉市中央区寒川町1丁目249-2		
自己評価作成日	平成26年7月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成26年8月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

笑顔をもっとに真心をこめた介護を心がけてます。  
スピードや効率の良い介護を展開するのではなく利用者様の気持ちを常に考え、傍らに寄り添い笑顔であふれる施設になるよう努力しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「我々政本グループは福祉、介護サービスを提供し、高齢者の生活を支えると共に、地域の雇用を守り、社会の安定に貢献します」を法人理念とし、法人本部で週に一度実施される朝礼の議事録がホームに配信され、職員間で共有し、法人からの通達を遵守して取り組んでいる。ホームの取り組みでは、今年度「地域との交流拡大」を目標に取り組み、地域商店の活用や地域のお祭りに利用者と一緒に参加をし交流拡大に繋げることができている。その成果もあり、2カ月に一度の運営推進会議には、近隣の民生委員や自治会長退任後においても参加を頂く等、地域との交流が着実に前進している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	政本グループの理念・運営目標に添うようにサービスを提供している。全社員が共有するために毎週、朝礼を実施している。	法人本部で週に一度実施される朝礼の議事録がホームにも配信され、朝礼の議事内容の確認と共に、議事録内に記載されている法人理念についても全職員で定期的に確認する事ができており、理念、運営目標を全職員で共有できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の商店が次々と閉店したため新たな近隣の商店へ挨拶に伺い、交流を始めた。	地域との交流充実を今期の目標に掲げ、近所の商店の活用や地域行事への参加を通じ地域交流を深めている。また、社会福祉協議会に登録しているボランティアの来訪もあり、ボランティアとの交流も深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症やホームの状況について説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議により発案された事柄や意見等は迅速に対応し、サービスの向上に生かしている。	運営推進会議には、民生委員、地域包括支援センター、前自治会長、家族の方が参加され2カ月に一度実施している。会議では、ホームの現状や行事報告、また参加メンバーからの助言に基づき、ボランティアの受け入れに繋げる等、サービス向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や訪問にて連絡を密に行い、信頼関係の構築に努めている。	市の担当課との連携に関しては、変更届の提出の際には直接出向き、必要に応じて現状等の報告を行っている。また、生活保護受給者の受け入れも行っており、保健福祉センターとも連携を図り対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修にて理解を深めている。玄関を含めドアは5つあり、2つのドアは解放し中庭へ自由に入出りできるようにしている。	身体拘束をしないケアの実践に向け、「身体拘束排除のための取り組みについて」をホーム内研修で実施する予定としている。現状玄関の施錠も含め身体拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修・朝礼にて理解を深めている。		

グループホーム千葉寒川の家 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用している方の担当者と接する機会はあるが、制度の深いところまでは理解できていないため、今後の課題としていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・ご家族にゆっくりと丁寧な説明を行い、不安を残さないよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	最近の様子などを面会時または電話等にてお伝えしている。 意見は直ぐに反映できるように取り組んでいる。	家族からの意見については、面会に訪れた際に直接意向や要望を収集している。また玄関先に意見箱を設置しており、意見等を表出できる機会を設けている。家族からの要望を受け、面会簿の形式を変更する等の取り組みが確認できた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、職員会議を行い意見や提案をもとによりよい事業所となるよう協働している。	毎月ホーム全体会議を実施しその中で、職員からの意見等を収集し、日々の業務や支援に反映させている。また法人本部から職員が派遣され、職員と個別に面会し意向や要望を収集する取り組みも行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に従い、個々の状況を把握し、職員が働きやすい環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を活かし、職員個々の能力を理解したうえで技術・知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加した時に交流を実施している。		

グループホーム千葉寒川の家 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境で安心して過ごしていただけるよう、ゆっくり時間をかけてコミュニケーションを取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ちを汲み取り、なんでも話せるような信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供を基にいま何を必要としているのかを見極め支援を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、草取り、水まき、洗濯物たたみなど出来ることは参加していただいている他に相談等に乗って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて様子をお伝えし、情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族以外の方が面会に来られる、縁の場所を訪れるといった支援は不十分であり今後の課題にしていきたい。	知人宅への訪問や友人の来訪を受け入れる等、これまでの関係の継続に向けた支援を行っている。また、家族と外出に出かけたり、親戚の家に外泊する等、利用者個々の状況に合わせ対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の間に職員が入り、利用者が孤立しないように心掛けている。		

グループホーム千葉寒川の家 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設側から連絡を取ることはないが、電話連絡をいただいた時には関係を切らないよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を聞き、ひとりひとりの思いにこたえられるように努めている。	利用者の思いや意向に関しては、日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、利用者の現状や課題を収集し、利用者の意向をケアプランに反映し、意向に沿った支援が図れるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子観察を行い、体調に応じて臨機応変に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員の意見をもとに本人の変化等、様子観察を行いケアプランを作成している。	アセスメントにおいて利用者の現状や課題を抽出し、担当者会議において職員の意見を収集し、総合的な意見を踏まえケアプランを作成している。ケアプランに掲げた目標については、短期目標終了時にモニタリングを実施し、達成状況を確認している。	定期的にケアプランの見直しは確認できたが、現行のプラン上で期間延長のみとなっているため、ニーズや目標についても定期的に見直し、家族の同意を得る事が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	詳細記録、申し送りを活用し、変更時には臨時に職員会議を行い、見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して必要なサービスは何かを職員間で共有し支援している。		

グループホーム千葉寒川の家 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店にて地域住民とも挨拶をかわし地域交流を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療があり、月に2回往診を受けており体調不良時にはその都度往診を受けている。土日祝日以外は往診がある状況で対応ができています。	ホーム提携先クリニックの訪問診療の受け入れのほか、週に一度訪問看護を受け入れている。体調不良の際にはその都度往診が受けられる体制であるほか、必要に応じ通院し適切な医療が受けられる体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の特徴などを情報交換し、往診がスムーズにいこうにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、週に一度は面会にて状況報告を受けている。退院時には訪問診療のドクターと連携をとり対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでは医療サービスの提供は困難であるが、利用者・ご家族の要望を出る限り叶えられるよう今後は終末期に向けた取り組みも支援して行きたいと思う。	重度化した場合や終末期のあり方については、利用契約の際に「医療連携体制加算についての同意書」を交わし、看取りに関する指針や重度化した場合における対応について説明している。利用中重度化が進む際には、主治医、家族と今後の方針を検討することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については勉強会を行っているが訓練は不十分であるため、今後は実践もふまえて実践力を身につけていきたいと思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて地域との連携を図り、全職員が対応できるよう勉強会を行っている。	火災を想定した避難訓練を実施し、避難誘導や通報の手順について確認を行っている。備蓄品についてもホーム内に保管している。また、地域の協力要請については今後の課題としている。	今後に向けては、災害時における連絡先について再度職員に周知していく事や夜間を想定した避難訓練の実施、さらには、地域との協力体制の構築についても前進していく事に期待したい。

グループホーム千葉寒川の家 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語で話しているが、個々との関係で馴れ合いの会話もあることがある。	誇りやプライバシーを損ねないように、利用者の名前は苗字でお呼びする事を原則とし、不適切な対応につながらないように取り組んでいる。また事務所内に「コンプライアンス・セルフチェックシート」を掲示し、日常的に職員が確認できるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類、買い物等、本人に決めてもらうように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに合わせて支援している。散歩・買い物には随時対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の衣装替え、起床時の髭剃り等支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付に参加して頂いている。二か月に一回は外食に出かけている。	食事の準備では、女性の利用者を中心に食器拭き等を手伝って頂いている。食事を楽しむ工夫では、イベントで利用者と一緒にケーキ作りを行うほか、出前や外食を通じ、食事の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々に合った量で提供を行い、水分補給も個々にあったもの、または季節に応じたもので対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケアを行い清潔保持に努めている。		

グループホーム千葉寒川の家 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミングを見計らいトイレ誘導を行う等の支援をしている。	利用者個々の排泄状況は「排尿排便チェック表」に記録し職員間で共有している。日中に関しては、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて確認を毎朝行い、時折薬を使用するが、水分補給を促し自然排便できるよう対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回入浴を実施している。会話を楽しみながらゆっくりと入浴している。	入浴に関しては週に3回入浴できるように支援している。入浴日はある程度決めていますが、利用者個々のペースや体調を配慮し、心身共にリラックスできる環境を作り、ゆっくりと安全に入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて時間帯にとらわれず休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問医・薬局と連携を取り、状態観察を常に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	水やり、食器拭きなどの役割を持っている。遠出の外出で気分転換して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外食や季節の外出などを行っている。近隣にはいつでも出かけられるよう支援している。	週に1～2回近隣の商店に買い物に出かけたり、外出行事を毎月企画し、近隣公園、バラ鑑賞、外食、ショッピングモールに外出する等、定期的に外出できる機会を設けている。また、家族の方の協力を得て外出する等、利用者個々の状況に応じ外出できるように支援している。	



グループホーム千葉寒川の家 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方もいる。買い物等、全員が好きな物を買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば外へ電話を掛けに行かれる方もおり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事ごとの写真を貼ったりしている。温度管理も常に気を配り調整している。	リビングには、利用者が作った作品や行事の写真を掲示しているほか、季節に合わせた装飾を作成し季節感が感じられるように配慮している。温度や湿度にも配慮し、利用者が居心地良く過ごせるように取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は自由に移動され、庭に椅子を設置して外の日や風に当たって過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や仏壇を置いたり心地よく暮らせるようにしている。	居室には、家族の写真や仏壇を置く等、本人や家族と相談し、ご自身の部屋として居心地良く過ごせるように配慮している。居室内の掃除も日々行い、衛生面にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には物を置かないように対応し、トイレは電気を点灯した状態にて対応している。		